

## ミスで惜敗した準決勝 徹底する人間教育

「うちはディフェンスのチームですので、ミスから失点していたら試合には勝てません」。三河安城リトルシニアの森秀哉監督(46)は、苦笑いで戦いを振り返った。

11月2日、碧南臨海公園野球場での県知事杯争奪リトルシニア東海連盟秋季大会の準決勝。チームは、普段から練習試合で交流のある知多東浦に0-1で惜しくも敗れた。この試合、初回に守りのミスから喫していたわずかに1点が、敗因となってしまう。

「守り勝つ野球」。森監督自身、愛産大三河高校時代に遊撃手として守りの要を担った。だが、それ以上に、まだ体も成長段階にある選手たちの将来を見据えたポリシーから来る指導スタイルと言っている。



就任8年目の森監督。情熱的な指導で礼儀やマナーなども教え込む

や返事、整理整頓がしっかりとできてこそ、本当に強いチームだと思います。

## 新年恒例の走り初め 全国選抜へ燃える闘志

毎年正月は安城市中心部の練習場に集合し、岡崎市にある岩津天満宮までの約10キロの道のりを走る。初詣を済ませたら再び安城市へ走って戻る。途中、空き地でトレーニングも行うのも恒例だ。その数日後には田原市の伊良湖合宿も予定され、浜辺ダッシュで足腰を鍛える。とにかく走って、新年の戦いに備える。

5月の大型連休では関東遠征も行い、全国レベルのチームと練習試合を組む。過去には清宮幸太郎(日本ハム)と対戦した代もあった。森監督の母校である愛知学院大学

## 【愛知の中学生硬式野球・リトルシニア②】

# 守って走って打って 未来を切り拓け 三河安城 リトルシニア

くことが大切です」

安城市に本拠地を置き、西三河地区の中学生が夢を追って汗を流す三河安城。2002年の創部以来、チームからは中京大中京や愛工大名電などの強豪私立校に何人も卒業生を輩出してきた。森監督の母校・愛産大三河にも毎年何人かは進み、昨年度に同校が甲子園に出場した際は、メンバーの4人がOBだった。

目的・目標を重視したり、反復訓練を勧める「チーム五訓」と、礼儀や感謝の気持ち、野球道具を大切に扱うなどの「規律六訓」の徹底を呼び掛け、情熱的な指導で人間教育にも力を入れる。「大人になってから、当たり前前のできないでは恥ずかしい。挨拶

と合同練習をする機会もある。

東海大会は決勝進出を逃したが、上位4チームが出場できる来春の全国選抜大会への切符は手に入れた。春は初めての全国大会へ、森監督は「先にミスをした方が負ける。粘り強く、少ないチャンスをもものにして、グラウンドをかき回してほしい」と期待する。

投打で活躍が期待されるのが、東海大会準決勝で1失点の好投を見せ、ベストナインにも選ばれた橋本心翼だ。「チャンスで1本が打てなかったのが、全国大会では必ず打ちたい。投手としてはランナーを出しても踏ん張れるような投球を見せたい」。球速も少しずつ上がり、カーブ、チェンジアップと変化球も冴え渡ってきた。

令和2年の正月も走りまくり、全国のラバルとの戦いに備えて体を温めておく。



秋季東海大会では投打の活躍でベストナインに選ばれた橋本。準決勝で敗れた悔しさを全国選抜で晴らす

文◎由本 裕貴  
写真◎伊藤勝成

